

製品名: ApoER2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07039**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	LRP8
別名	LRP8; APOER2; Low-density lipoprotein receptor-related protein 8; LRP-8; Apolipoprotein E receptor 2
遺伝子 ID	55911.0
SwissProt ID	Q14114
免疫原	抗血清はヒト LRP8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 451-500

背景

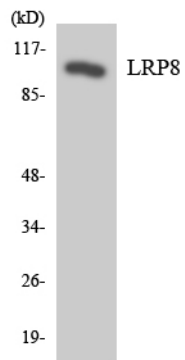
この遺伝子は、低密度リポタンパク質受容体 (LDLR) ファミリーのメンバーをコードしています。低密度リポタンパク質受容体は、

シグナル伝達と、リソソーム分解のための特定のリガンドの受容体を介したエンドサイトーシスの両方に関与する細胞表面タンパク質です。コードされているタンパク質は、リーリンシグナル伝達を媒介することで、発達期のニューロンの移動に重要な役割を果たし、またコレステロール輸送タンパク質であるアポリポタンパク質 E の受容体としても機能します。この遺伝子の発現は、大うつ病性障害のマーカーとなる可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011 年 6 月],代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです。対照群とアルツハイマー病患者の脳のパターンスプライシングに差異は認められませんでした。疾患: LRP8 の遺伝的変異は、1 型心筋梗塞の感受性と関連しています[MIM:608446]。アテローム性冠動脈疾患 (CAD) と心筋梗塞 (MI) は、西洋世界の心臓病における主な死亡原因を占める複雑な特徴です。、ドメイン:細胞質ドメインは、DAB1 の結合と JNK 相互作用タンパク質のリクルートに関与しています。細胞質ドメインの一部を欠くアイソフォームは、JNK 相互作用タンパク質ファミリー (JIP) のメンバーを細胞質尾部にリクルートすることができません。、機能:リーリン (RELN) およびアポリポタンパク質 E (apoE) 含有リガンドの細胞表面受容体です。LRP8 は、細胞質尾部にある DAB1 に結合して、細胞外リーリンシグナルを細胞内シグナル伝達プロセスに伝達する役割を担っています。リーリンは、VLDL 受容体 (VLDLR) と LRP8 の両方を介して作用し、ニューロンにおける DAB1 チロシンリン酸化と微小管機能を制御します。LRP8 は、VLDLR よりもリーリンに対する親和性が高くなっています。LRP8 は、胎児の脳発達において前脳の神経層形成を制御するリーリン経路の重要な構成要素です。小胞体常在受容体関連タンパク質 (RAP) に結合します。β2-糖タンパク質 I の二量体に結合し、血管系における血小板凝集の抑制に関与している可能性があります。精巣上体起始部で高発現し、精子成熟に必要な 2 つのタンパク質、クラステリンとリン脂質ヒドロペルオキシドグルタチオンペルオキシダーゼ (PHGPx) の機能発現に影響を与えます。エンドサイトーシス受容体としても機能する可能性があります。、その他: アポ E の天然アイソフォーム (E2、E3、E4) は LRP8 に対して同様の親和性を示します。、PTM: O-グリコシル化されています。選択的スプライシングを受けたアイソフォームの中には、O 結合型糖ドメインを欠くものがあります。、PTM: アポ E 結合時にリン酸化されるチロシン。、PTM: フーリンおよびガンマセクレターゼ依存性のタンパク質分解プロセッシングを順次受け、リガンド結合ドメイン全体が可溶性ポリペプチドとして細胞外に放出され、細胞内ドメイン (ICD) は細胞質に放出されます。フーリン切断部位を有する選択的スプライシングを受けたアイソフォームでは、ガンマセクレターゼ依存性のタンパク質分解プロセッシングは、フーリン依存的に細胞外ドメインの大部分が切断された後に起こります。低グリコシル化 (主に低 O グリコシル化) は細胞外切断の増加につながり、その結果、ガンマセクレターゼによる細胞内ドメイン (ICD) の放出が加速されます。得られた受容体フラグメントは、リーリンシグナル伝達、特にリーリン誘導性 DAB1 リン酸化を阻害することができます。、類似性: LDLR ファミリーに属する。、類似性: 2 つの EGF 様ドメインを含む。、類似性: 5 つの LDL 受容体クラス B リピートを含む。、類似性: 7 つの LDL 受容体クラス A ドメインを含む。、細胞内局在: フーリン型切断部位をコードするエクソンを含むアイソフォームは、タンパク質分解によって処理され、分泌型受容体フラグメントとなる。、サブユニット: リーリンは 2 つ以上の受容体分子と会合する。DAB1 および JNK 相互作用タンパク質と相互作用する。SNX17 と相互作用する。、組織特異性: 主に脳と胎盤で発現する。血小板と巨核球細胞にも発現する。肝臓では発現しない。、

研究分野

神経科学

画像データ



LRP8 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。